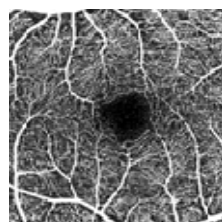


**眼科機器「OCT-HS100<sup>※1</sup>」で OCT Angiography の利用が可能  
造影剤を用いず最短約 3 秒の検査時間で網膜の血管形態を描出**

キヤノンは、光干渉断層計<sup>※2</sup>「OCT-HS100」を用いて、最短約 3 秒の検査時間で網膜の血流の状態を可視化し、血管形態を描出する画像処理技術 OCT Angiography（アンギオグラフィ）のオプションソフトウェア<sup>※3</sup>を、2016年4月7日より発売します。



「OCT-HS100」の使用イメージ



OCT Angiography の画像

OCT Angiography は、光干渉断層計で取得した網膜の断層画像から血流情報のみを抽出し、血管像を再構築することで眼底の血管形態を描出する画像処理技術です。眼底の血管の状態を観察するために必要としていた造影剤を使用しないため、アレルギー反応を引き起こすリスクを伴わずに、網膜や脈絡膜血管内の血流の状態を可視化できます。糖尿病網膜症や緑内障などの検査に有用になることが期待され、病院や眼科クリニックでの利用を想定しています。

**■ 最短約 3 秒の短い検査時間で、目が動く被検者の血管画像も高精細に再現**

毎秒約 7 万本の高速スキャンにより、最短約 3 秒の検査時間で OCT Angiography の画像を取得できます。これにより、被検者の負担を軽くすることに加え、目が動くことによる画像への影響が軽減され、高精細な画像を得ることができます。また、わずか 2 クリックの簡単な操作で、自動で鮮明な画像を取得することが可能です。

**■ 3D 表示により網膜血管網の立体情報の把握が可能**

縦分解能 3 μm の優れた解像度により、網膜血管網を高画質に 3D 表示できます。動静脈や毛細血管の走行の上下関係を鮮明に可視化することで、緑内障診断に必要な視神経乳頭内の毛細血管の評価や、加齢黄斑変性で見られる脈絡膜の新生血管の位置を特定するなど、眼底疾病の応用検査として活用されることが期待されます。

なお、4月7日から10日まで、仙台国際センターで開催される「第120回日本眼科学会総会」で併設する器械展示会のキヤノンブースにて、OCT Angiography のデモを実施する予定です。

オプション名	希望小売価格（税別）	販売開始日
OCT Angiography <sup>※3</sup>	オープン価格	2016年4月7日

※1 医療機器認証番号：224ABBZX00055000

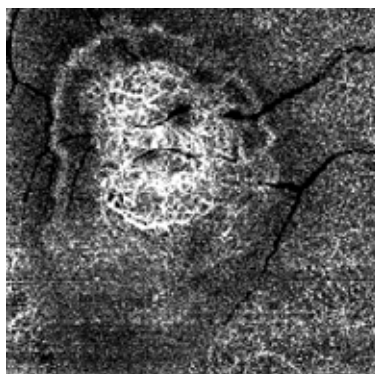
※2 Optical Coherence Tomography (OCT) のことで、網膜の断面図を見ることができる眼科機器。

※3 「眼科ソフトウェアプラットフォーム RX」医療機器認証番号：227ABBZX00088000 でも OCT Angiography の画像を参照可能。

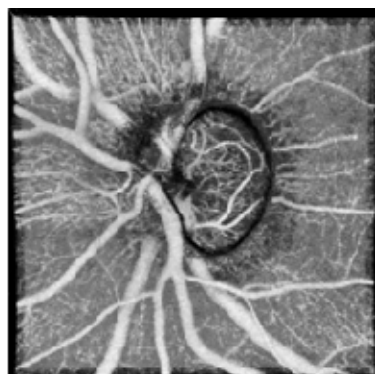
\* 国内市場では、キヤノンマーケティングジャパングループの医療事業の中核企業であるキヤノンライフケアソリューションズ株式会社が、主体となって販売します。

- 報道関係者のお問い合わせ先：キヤノン株式会社 広報部 広報課 03-3757-6320（直通）
- 一般の方のお問い合わせ先：キヤノンマーケティングジャパン株式会社 03-3740-3434（直通）  
医療機器販売推進課
- 報道関係者用ホームページ：e-pr.canon.jp ● 医療機器ホームページ：canon.jp/medical

## <症例画像>



中心窩下脈絡膜新生血管  
(CNV : choroidal neovascularization )



RPC ネットワーク  
(3D 表示)

## <OCT と眼底カメラの市場動向>

先進諸国での失明原因の上位は、加齢黄斑変性、緑内障、糖尿病網膜症です。加齢黄斑変性と緑内障は、加齢とともに発症の可能性が高くなります。今後、高齢人口が増加する中で、これらの疾病の早期発見のために、OCTおよび眼底カメラを活用する機会はさらに増えるものと予想されます。また、糖尿病患者についても、糖尿病が疑われる人の推計は国内だけでも約 2,050 万人<sup>※</sup>であり、糖尿病の合併症の一つである網膜症の検査において、眼底カメラと OCT がますます注目されています。

※ 厚生労働省『平成 24 年国民健康・栄養調査』33 ページに記載の、「糖尿病が強く疑われる者」と「糖尿病の可能性を否定できない者」の推計の合計数。

## <OCTの用途>

眼科市場におけるOCT装置は、黄斑や視神経乳頭など網膜の断層を検査するもので、眼底および眼底断層像を観察・撮影・記録し、より質の高い診断をサポートします。OCTの登場により、これまで確認できなかった疾患の詳細まで判別できるようになり、現在では日常診療においても、診断・治療方針の決定など効果判定になくはならないものになっています。

また、眼底とは、目の奥の網膜や血管などがある部位のことで、全身の中で唯一、直接血管を見ることができ、多岐にわたる眼科疾患の診断に役立っています。